

# 臨床の経験いかして 楽しくわかりやすい授業

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 分子薬理学分野  
吉本 勝彦 よしもと かつひこ

吉本先生は内科医（第一内科）を経て十二年間の寄付講座を経験。平成十四年から歯学部で薬理学の授業を受け持っています。

「歯学部 of 学生も全身のことを知っていないわけありません。そういう意味では内科と歯科の橋渡しになれば幸いです」

薬が効くメカニズムについての講義ですが、臨床の現場を知っているからその内容と、毎回手作りの資料をプリントして授業を進めるので、学生にはおもしろくわかりやすいと好評です。

なるべく生徒自身にもしゃべって

もらう、授業が一方通行にならないように対応型・双方方向の授業も心がけています。

「学生とはなるべく気軽につきあえるようにしています。」

授業中は、ひとりひとりに問いかけながら答えてもらうことで、少しでも内容をインプットしてもらえようとしています。

しかし内科出身のため、逆に歯学部との専門用語の違いには苦労したようです。

「分野が違えば専門用語もずいぶん違うんです。最初のころは分厚い辞書や他の先生方にもお世話になりました」

授業の最初には、前の授業の復習と出欠の確認を兼ねて小テストを行います。そのことにより忘れていた内容も思い出し、スムーズに授業がこなされていきます。

「教科書だけでは理解しにくいことを、事例をあげて説明することで、印象に残る講義になるように、これからも努めていきます。」



## 受講生のコメント

プリントを用意してくれて、その内容に沿って進めてくれるのでとてもわかりやすいです。臨床例や興味のわくわくな話をしてくれるので、そちらの方もおもしろくて頭に残っていますね。毎回の小テストも授業の内容を確認していけるので助かります。

## 「徳大広報」の編集基本方針



- 1 徳島大学の学生及び職員相互の交流と理解を深めるための広報誌とする。
- 2 徳島大学の教職員OB、学生保護者、卒業生へ広く情報を提供する広報誌とする。
- 3 徳島大学と地域社会との結びつきを深める広報誌とする。
- 4 国際社会への展望を持ち、世界とのつながりのある広報誌とする。
- 5 広く学内外の声を取り入れ、読みやすく親しみのもてる広報誌とする。